

第2期健康増進計画・食育推進計画（素案）にかかる パブリックコメント結果

- (1) 案件名 第2期健康増進計画・食育推進計画（素案）
(2) 募集期間 令和3年12月16日（木）から令和4年1月17日（月）まで
(3) 意見提出者 1名
(4) 意見の数 3件
(5) 意見への対応内訳

	対応区分	件数
A	計画に追加又は修正するもの（追加・修正）	0件
B	計画に趣旨を記載済みのもの（趣旨記載）	3件
C	計画の実施段階で参考とするもの（参考）	0件
D	その他	0件
	合計	3件

整理番号	ご意見の概要	対応	ご意見に対する考え方
1	<p>子どもの時期に食事をとるだけでなく、作ることも重要。実際に調理することで、手間をかけて作られていることがわかり、食事の大切さを知ることが出来るのではないかと。</p> <p>最低限の調理技術として、米を炊くことと味噌汁を作れるようになることを目標にしてはどうか。</p>	B (趣旨記載)	<p>P85(1)の取組の中で「子どもの食に関する力の習得を図る」としている箇所が、調理実習も踏まえた取組を展開していくことを念頭に置いたものになります。なお、調理実習の取組は現計画においても小学生を対象に実施しています。</p>
2	<p>調理を継続して行うためには、調理のハードルを下げるのが重要。中食や簡単調味料などをうまく活用できるように啓発していく取組も必要ではないかと。</p>	B (趣旨記載)	<p>P85(2)の取組の中で「食材を選ぶ力・調理する力を育む」としている部分を細かく捉えると、自身の調理レベルに合った食材の選び方、より手間や時間をかけずに調理できるようになること、さらに、中食を有効に活用することも内包しています。</p>
3	<p>何歳になっても少しでも自分の歯で噛んで食べることでできる食品、料理があることが大切。そのためには堅い、かみ応えのある食品の啓発も必要。</p> <p>ライフステージに応じた食の楽しみ方、食べ方があると思うので、そういったものを大事にして欲しい。</p>	B (趣旨記載)	<p>前半の「何歳になっても少しでもかんで食べることでできる食品、料理」の啓発については、P79(1)の取組の中で「8020運動の周知、歯と健康づくりに関する指導」としている箇所が、「自分の歯を少しでも残す」ことを目的とした取組になります。</p> <p>また、後半の「ライフステージに応じた食の楽しみ方、食べ方」については、P85(2)はもちろん、自分以外の人と楽しく食事をするという意味で(3)の取組も該当すると考えます。</p>

問い合わせ先 健康福祉部健康推進課
 電 話 0774-64-1335
 Eメール kenko@city.kyotanabe.lg.jp